令和８年度　　発表日：令和８年７月30日

農作物病害虫発生現況情報（７月）　りんご編

岩手県病害虫防除所

１　斑点落葉病

（１）基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における新梢葉での発病葉率は、７月第３半旬から７月第４半旬にかけて急増した。急増期は平年より遅かった（図１）。

（２）７月後半の巡回調査では、ふじでの発生園地率は41.9％（平年43.2％）と平年並であった（図２）。

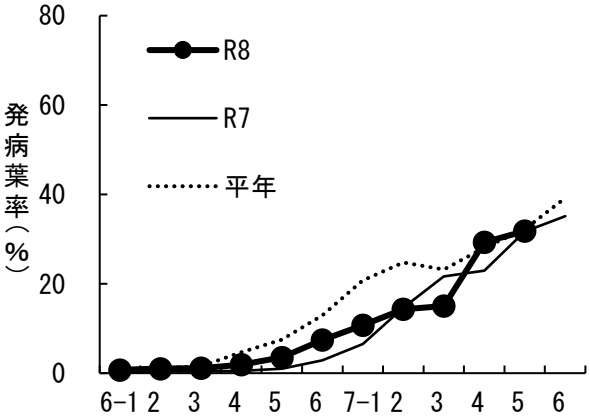

図１　基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
（月-半旬、ｽﾀｰｷﾝｸﾞﾃﾞﾘｼｬｽ、新梢葉）

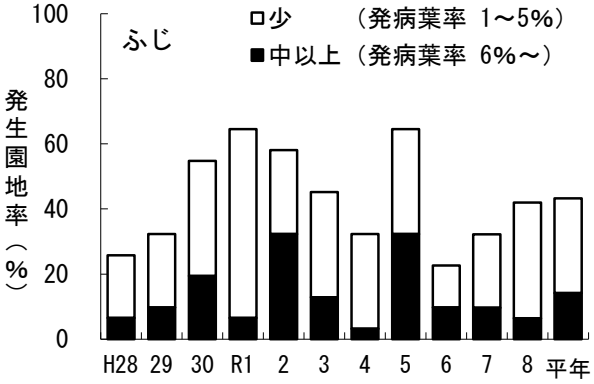

図２　斑点落葉病の発生園地率の年次推移
（ふじ、７月後半、徒長枝上位10葉）

２　黒星病

（１）７月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年12.6％、図３）。

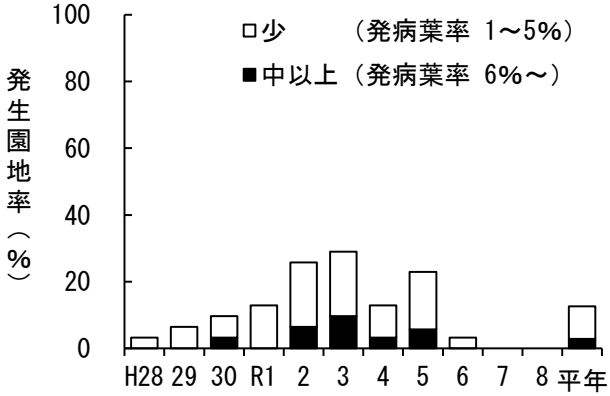

図３　黒星病の発生園地率の年次推移
（７月後半、徒長枝葉）

3　褐斑病

（1）基準圃場（北上市成田、ふじ、無防除）では、新梢葉での発病葉率は、６月第５半旬から７月第５半旬にかけて増加した（図４）。

（2）７月後半の巡回調査では、発生園地率は32.3％（平年17.1％）で、平年より高かった（図５）。

（3）地域別では、県南部の発生園地率が高く、程度「中以上」（発病樹率26％以上）の園地も見られた（図６）。

（4）発生部位別に見ると、果そう葉での発生が多かった（データ省略）。

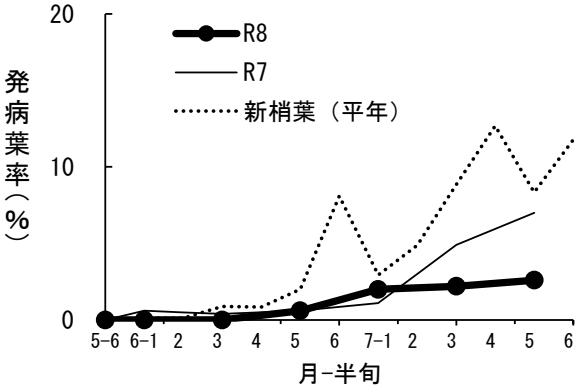

図４　基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移（月-半旬、ふじ、新梢葉）

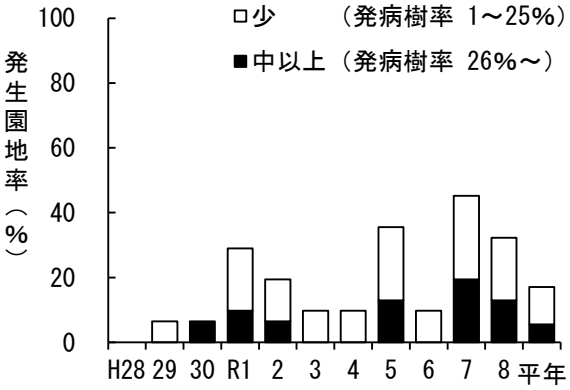

図５　褐斑病の発生園地率の年次推移（７月後半）

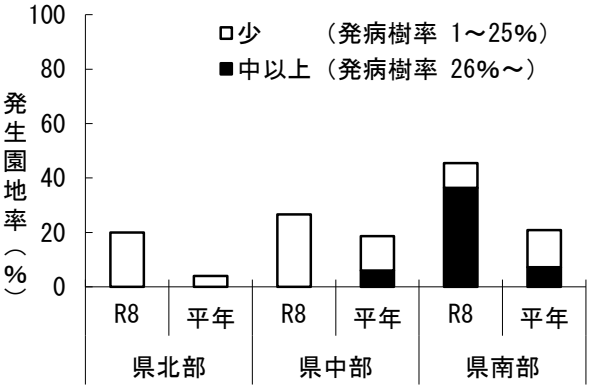

図６　褐斑病の地域別の発生園地率（７月後半）

4　キンモンホソガ

（1）７月後半の巡回調査での発生園地率は、6.5%（平年9.0%）で平年並であった（図８）。

5　ギンモンハモグリガ

（1）７月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年6.5%、図９）。

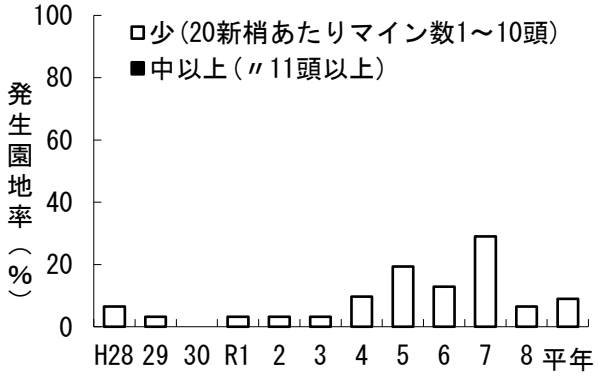

図８　キンモンホソガの発生園地率の年次推移（７月後半）

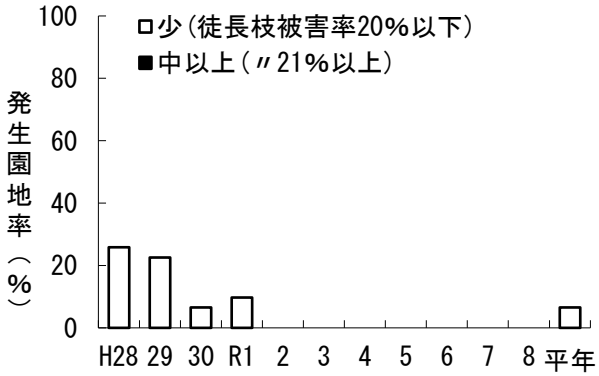

図９　ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（７月後半）

6　リンゴハダニ

（1）７月後半の巡回調査では、目通りの発生園地率は35.5%（平年31.9%）で平年並、発生程度が中以上の園地は6.5%（平年11.0%）で平年よりやや低かった（図10）。一方で、樹上部の発生園地率は38.7%（平年28.3%）、発生程度中以上の園地率は22.6%（平年9.1%）で平年よりやや高かった（図11）。

（2）７月後半の巡回調査での発生園地率は、県北部で平年よりやや高かった（図12）。

（3）発生園地率は、６月後半以降平年並～やや高く推移している（図13）。

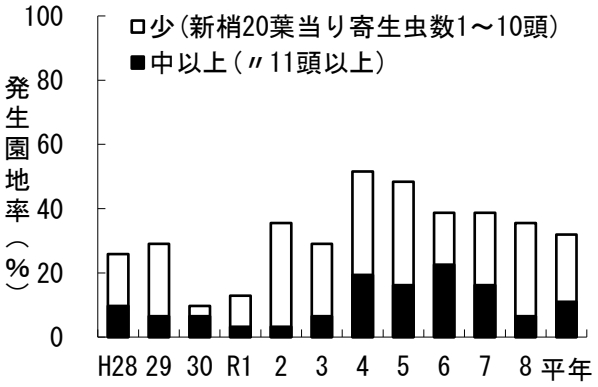

図10　リンゴハダニ（目通り）の発生園地率の年次推移（７月後半）

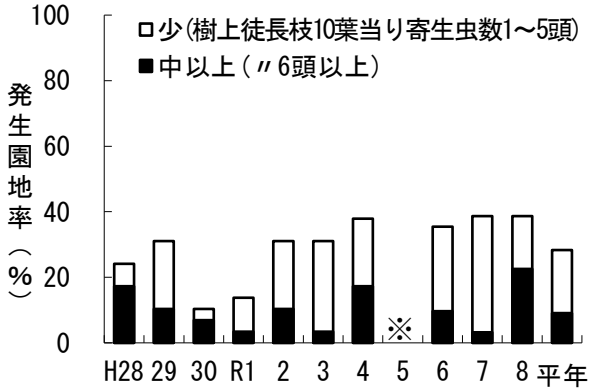

図11　リンゴハダニ（樹上部）の発生園地率の年次推移（７月後半）※R5は欠測

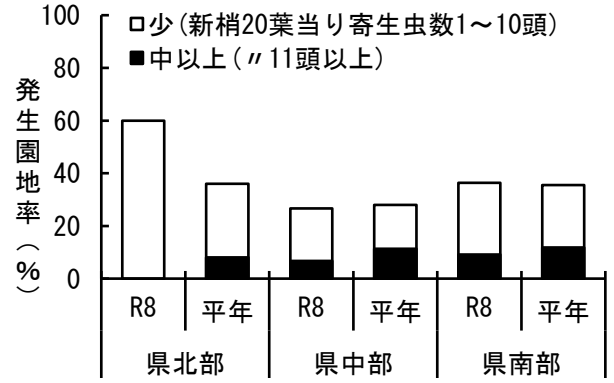

図12　リンゴハダニ（目通り）の地域別発生園地率（７月後半）

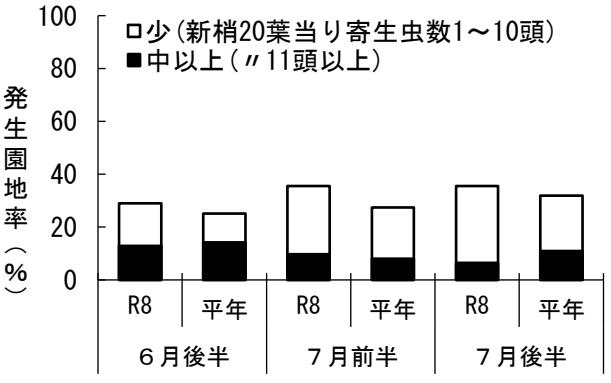

図 13　リンゴハダニ（目通り）の時期別発生園地率

※発生程度の評価基準は各時期で異なる

7　ナミハダニ

（1）７月後半の巡回調査では、目通りの発生園地率は、9.7%（平年 35.5%、図 14)、樹上部の発生園地率は 12.9%（平年 31.7%、図 15）で平年より低かった。

（2）７月後半の巡回調査では発生が県中部で確認されたが、発生園地率は平年よりやや低かった。県北部と県南部では、発生が確認されなかった（図 16)。

（3）発生は６月まで見られなかったが、７月以降見られ始めた。発生園地率は、６月後半以降平年より低く推移している（図 17)。

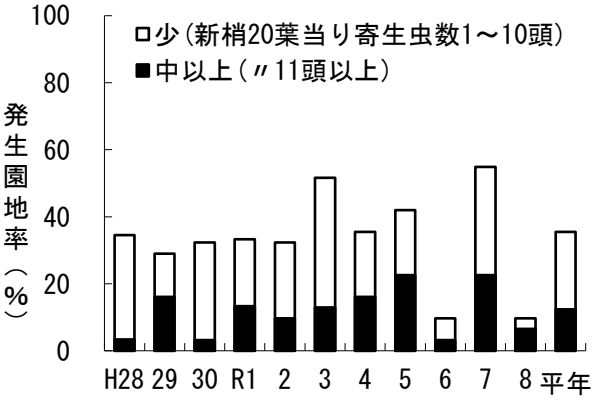

図 14　ナミハダニ（目通り）の発生園地率の年次推移（７月後半）

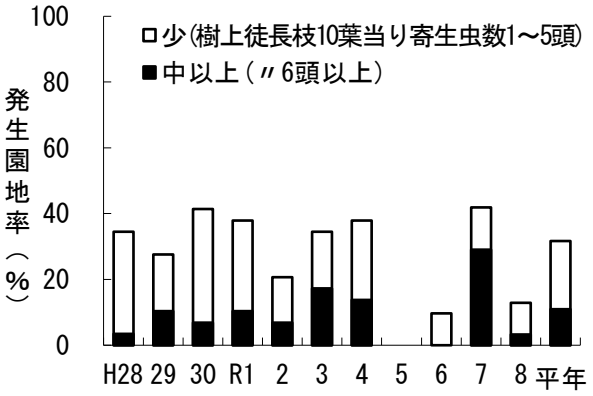

図 15　ナミハダニ（樹上部）の発生園地率の年次推移（７月後半）

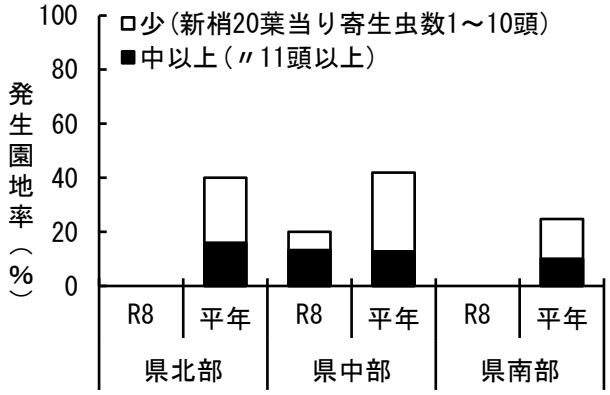

図 16　ナミハダニ（目通り）の地域別発生園地率（７月後半）

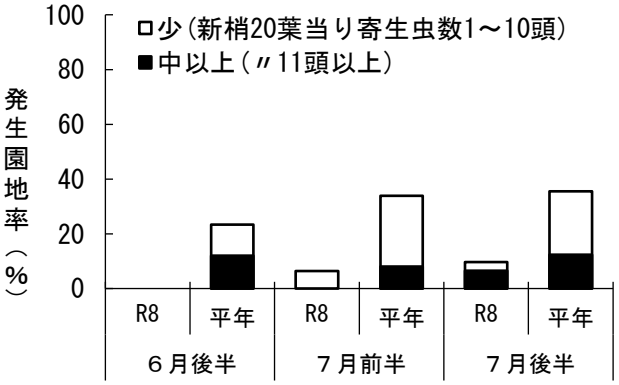

図 17　ナミハダニ（目通り）の時期別発生園地率
※発生程度の評価基準は各時期で異なる

8　シンクイムシ類

（1）７月後半の巡回調査では、被害果は確認されなかった（平年 0.6%、図 18)。

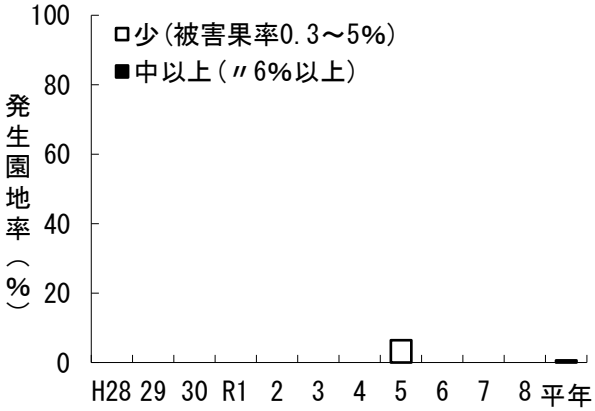

図 18　シンクイムシ類の発生園地率の年次推移（７月後半）

9　果樹カメムシ類

（1）７月後半の巡回調査での被害果発生園地率は、32.3%（平年 34.8%）で平年並であった（図 19)。
（2）７月後半の巡回調査での被害果発生園地率は、県北部で平年より高かった（図 20)。
（3）被害果発生園地率は、６月以降平年並に推移している（図 21)。
（4）集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、６月前半までは前年多発園を中心に平年を上回ったが、６月後半以降は平年並に推移している（図 22)。
（5）予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、６月以降平年並に推移している（図 23)。

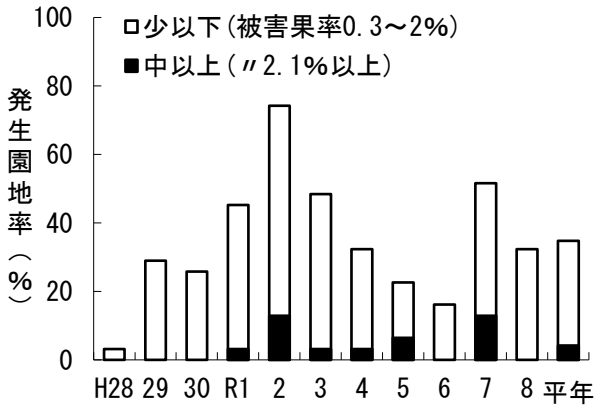

図 19　果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（７月後半）

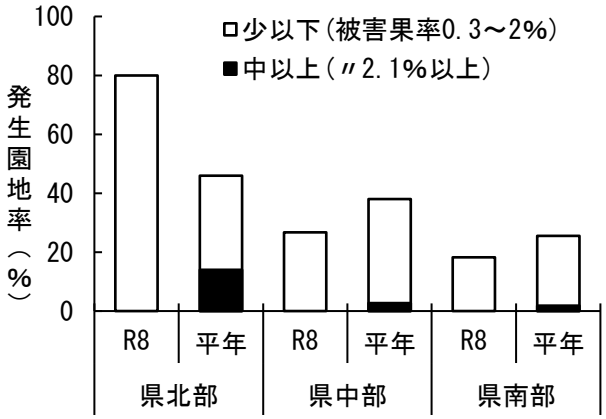

図 20　果樹カメムシ類被害果の地域別発生園地率（７月後半）

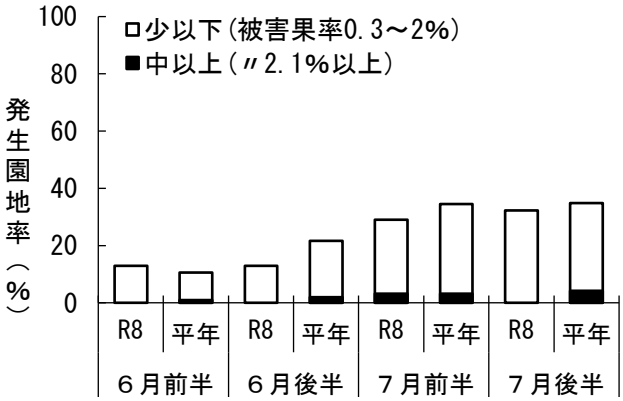

図 21　果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移

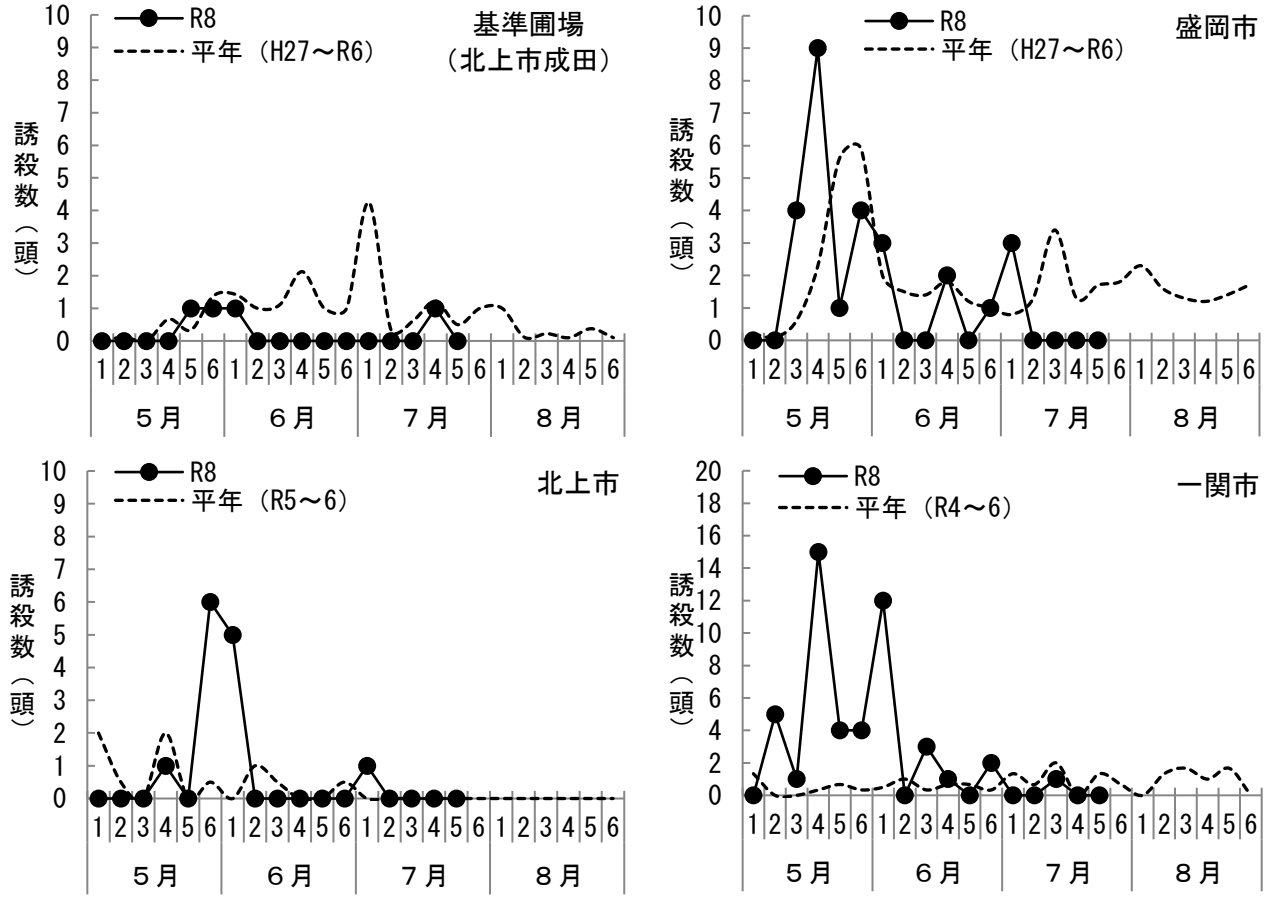

図 22　チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
（左上：基準圃場（北上市成田）、右上：盛岡市、左下：北上市、右下：一関市）
※現地圃場の北上市は R5、一関市は R4 から調査圃を設置している

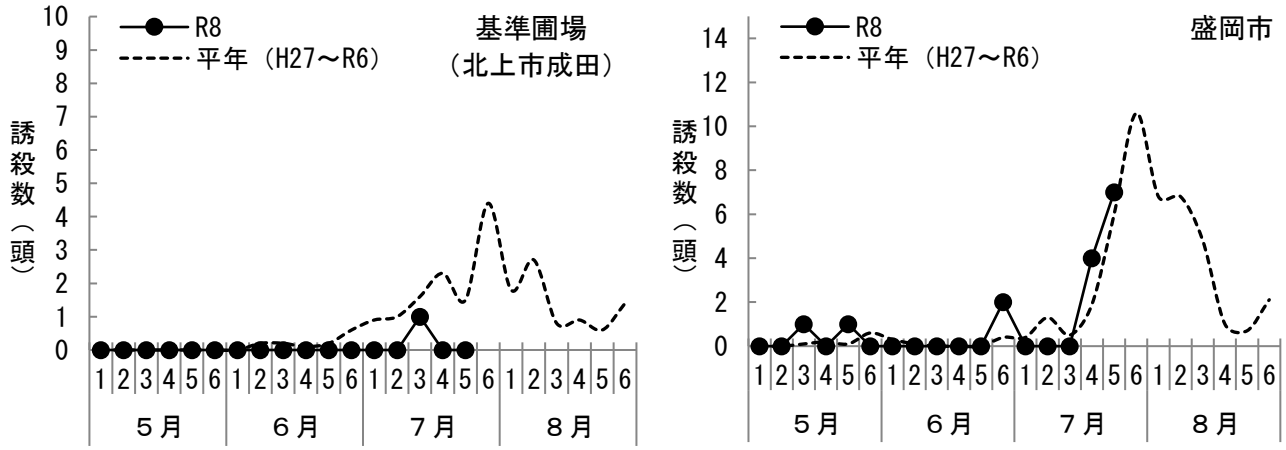

図 23　クサギカメムシの予察灯への誘殺状況（左：北上市成田、右：盛岡市）